

平成30年7月豪雨インタビュー

平成30年7月豪雨のときの様子、困ったことなど、令和元年10月27日に開催した「福祉保健まつり」に来場された方にお聞きしました。災害の発生に備え、実際の声を確認してみましょう。

避難開始のタイミング



家族から避難するように連絡があったけど、大丈夫だろうと思い避難しませんでした。避難しようと思ったときには、家の裏通りが冠水していて車で避難ができなくなっていました。19時頃に、近所の知人の家が3階建てだったので、頼んで避難させてもらいました。

台風や大雨の際には、事前に気象情報を確認して危険を感じれば早めに避難所へ避難を行うことが重要です。平成30年7月豪雨のように急激に雨が激しくなるような場合には、気付いたときにはすでに外出が危険な場合があります。そのため、近くの高い建物への避難も考えられます。

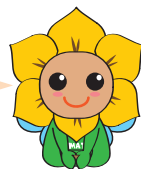


⇒災害発生時の行動は、風水害はP9、地震・津波はP12で確認!



町内会長から避難の呼びかけがあり、自宅の2階に避難しました。不安はありましたけど、持病があるので避難所へ避難するとトイレの設備が整っていないことや、薬の心配があり、自宅の方が慣れているため安心だと思いました。設備が整った避難所があれば避難したいです。

海田町では、ご高齢の方、病気をされている方、乳幼児や妊娠されている方など体調に不安のある方（要配慮者）を、災害時には通常の避難所から、より環境の整っている福祉避難所へ移動していただいています。そのため、災害が発生したら、まずはお近くの避難所へお越しください。



避難所生活



避難所ではプライバシーが確保できなさそうですし、子どもが小さく騒いだり、寝られなかったりするかもしれないので、避難所への避難は躊躇してしまいます。段ボールベッドやプライバシー確保の対策があると安心できます。

海田町では、災害時の協力に関する協定を結んでおり、段ボールベッドなどの物資の供給を要請できることとしています。その他、避難所運営に関するマニュアルにより、避難所における快適な生活環境の確保を進めています。



⇒避難所での生活は、P16で確認!

事前の備え（備蓄）



洪水ハザードマップなどは常に袋に入れ、**すぐに持ち出し可能なように準備**して、定期的に確認をしています。薬なども持ち出し用に準備はしていますが、量が多く持ち出しに困りそうです。

持出品は、ご自身の体調や普段の生活から必要と考えられるものを、持ち運び可能な量で準備しておきましょう。また、ハザードマップについては平素から活用し、避難所や経路など確認しておきましょう。

⇒事前に必要な備え（備蓄）は、P13-14で確認！



地域での助け合い



家の裏を見て側溝があふれてきたので、周囲の方に呼びかけをして、近所の家の2階に避難しました。発災後、家の周りの道路が泥だらけだったので、**近所の人とみんなで掃除**をしました。災害後、近所の皆と避難先、避難ルートを話し合い、実際に歩いてみました。もしものときには**今回の災害と同様に、声掛け**をして逃げるようにしたいです。

地域にはご高齢の方や小さなお子さんのいる家庭などさまざまな状況の方が暮らしています。中には避難を難しく思われる方もいます。**災害時には地域で協力して助け合い**ましょう。



当日の20時頃、家の前の道路をみると川のような状態で、避難すると危なそうだったので、もしものときには2階に移動すればよいと思いました。そのときは浸水しなかったので、よかったです。**翌日以降、ボランティアセンターに行き、ボランティアに参加しました。**ふだんから福祉センターのボランティアグループに入っており、災害の1週間前に防災講座（人間塾）があり受講していたので、**災害後もボランティア支援ができました。**地区で行われる炊き出しの訓練にも参加しています。

ボランティアにご協力いただきありがとうございました。
海田町では、**防災講座や地域の防災訓練支援**などの活動を行っています。住民のみなさんはぜひご参加ください！

⇒地域での助け合いは、P15で確認！

